

| | | | | | | | | | |
|--|------------------------------|--------------------|--------|----------------|-------------------|------|------------|------|-----|
| 科目ナンバリング | | U-LAS01 10003 LJ38 | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | 日本史II Japanese History II | | | 担当者所属 職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授 吉江 崇 | | | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | | 分野(分類) | 歴史・文明(基礎) | | 使用言語 | 日本語 | | |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義(対面授業科目) | | |
| 開講年度・ 開講期 | 2025・後期 | | 曜時限 | 月2/月3 | | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | |
| 【日本古代の国家と政治 到達点としての摂関政治】 日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。今期は、摂関政治の全盛期ともいえる10世紀後葉から11世紀前葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。 | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | |
| 日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。 | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | |
| 7世紀後葉に成立した日本の律令国家は、8世紀後葉から変質をはじめ、長い過渡期を経て10世紀後葉に摂関政治へと転成した。今期は、藤原兼家、道長、頼通といった人物が登場し、摂関政治が全盛期を迎える10世紀後葉から11世紀前葉にかけての国家の様相を、政治史を中心にしながら考察する。まずは摂関政治の展開における藤原兼家の時代の位置付けを検討し、その上で藤原道長が政権を掌握していく様子を整理する。次いで、摂関政治期における宮廷社会の様相を、故実・先例を重視することや末法思想の広がりを中心に焦点をあてて概観する。最後に、摂関政治との関連性に注意しながら、院政への展開について考察する。 | | | | | | | | | |
| 第1回 イントロダクション 摂関政治のとらえ方 第2回 摂関政治の進展と藤原兼家(1) 第3回 摂関政治の進展と藤原兼家(2) 第4回 藤原道長の内覧就任(1) 第5回 藤原道長の内覧就任(2) 第6回 藤原道長の栄花とは何か(1) 第7回 藤原道長の栄花とは何か(2) 第8回 故実・先例を重視する宮廷社会(1) 第9回 故実・先例を重視する宮廷社会(2) 第10回 末法思想の形成と展開(1) 第11回 末法思想の形成と展開(2) 第12回 摂関政治から院政へ(1) 第13回 摂関政治から院政へ(2) 第14回 総括 《期末試験》 第15回 フィードバック | | | | | | | | | |
| ----- 日本史II(2)へ続く ----- | | | | | | | | | |

日本史II(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）にて成績評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

シラバスなどから授業の進行を確認し、各回の授業内容を想定しながら予習をすること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業は講義形式で行う。